



若者がもつ介護に対するイメージの実態と 正しい理解を促進するためのアプローチ手法

第2回 福祉人材確保対策検討会
株式会社ケアワーク弥生

+ 自己紹介

森近 恵梨子

- ユアハウス弥生（小規模多機能） スタッフ
 - 上智大学大学院総合人間科学研究科社会福祉学専攻
修士課程2年
- 1人でも多くの若者が福祉に関心を持ち、
活躍できるような社会づくりに貢献したい —
- 大学生発！福祉をオシャレに発信するフリーペーパー「Wel-bee」等様々な活動をおこなってきた。

+ 実は、大学入学前は介護現場に対するイメージは最悪でした。

- 福祉政策を学ぶために社会福祉学科に入学
- 介護の現場では絶対に働きたくない
- 社会福祉系大学入学に対する家族からの猛反対

大変そう

給料が
低そう

将来の
イメージ
が描けない

しかし、なぜ、上智に来たのか やはりなぜ福祉を学ぼうとしたのか そして研究してみたら見えてきたこと

- 漠然と抱いていた、「社会を変えたい！」という思い
- 入学案内の文章に惹かれて
- 福祉政策を学ぶために社会福祉学科に入学

自ら抱いていたイメージは
間違っていたことがわかった。

+ 介護現場で感じたこと

- 利用者さんが得たい生活を、日々一緒に試行錯誤しながら少しずつ獲得していく過程が面白い

→言語コミュニケーションがかなり難しくなかなか入浴できなかった認知症のご利用者様とじっくり2時間向き合い、入浴していただくことが出来、とても喜んでもらえた。

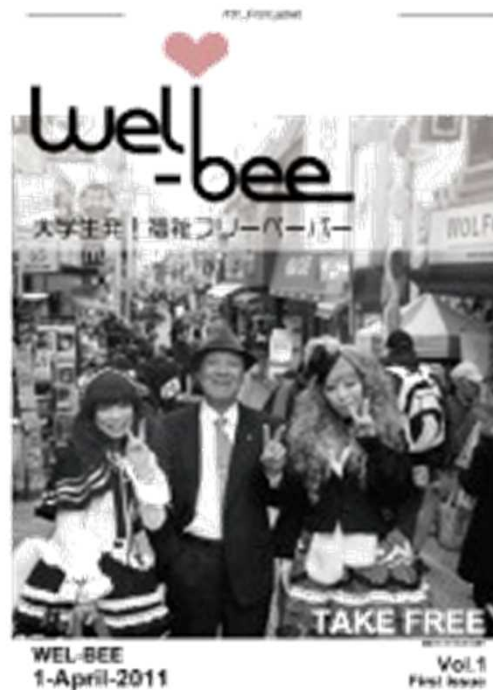
→1年前、マイナス発言が多く閉じこもり傾向にあった利用者さん。関係性を構築し、「あなたとだったら行きたい」と一緒にご本人のよく行っていた場所へ行けるようになり、今では利用者さんから外出のお誘いを受けるように。

「人生の最後にあなたの様な人に会えて良かったですよ。もう私は死んだも同然だと思ってたから。」

- 日々勉強不足を感じ、向上心を持ち続けられる
- 単純に、「楽しい」



+福祉についてオシャレに発信する フリーペーパー「Wel-bee」



NHK「首都圏ネットワーク」で取り上げられた。

+ 若者の福祉の入り口をつくる

きっかけ



read



research

福祉について
もっと知りたくなる！



act

福祉に
かかわりたくなる！

+ なぜフリーペーパーなのか？

- “たまたま” 手にとれる
- インパクト
- 保管でき、いつでも読み返せる



+ 介護業界で活躍する若者の ロールモデルを発信する。



中浜崇之さん

イケメン介護士

- 「介護ラボ しゅう」という介護に思いを持つ人の集まりを月に1回開催。
- その他介護に関するイベントの主催をしたり、MCを務める。
- デイサービスを立ち上げる。

+ 介護は学生の人気アルバイトになる可能性がある！



柴崎良太さん 大学生ガイドヘルパー

「介護＝遊べる仕事！」

☆居酒屋のバイトよりも面白い

- かかわっていくうちに利用者さんが心を開いてくれるようになり、利用者さんのわからなかったボディランゲージがわかるようになる過程
- ご家族から信頼されるようになることで感じるやりがい



Wel-beeの成果

福祉人材確保の視点から

+ 介護の切り口を変える

(背景)

ソーシャルアントレプレナー（社会起業家）・NPO・
ソーシャルグッドに興味を持つ大学生が増えている。



介護について、それらの切り口で
発信する

元々、それらに興味のあった学生から介護現場でボランティアをしたいと相談を受けることが多々あった。

(事例) 社会起業家等を取り上げる若者に人気のWebメディアにて、ある介護のベンチャー企業の社長のインタビュー記事をアップしたところ、その年の新卒採用の面接の際、「記事を見た」と介護に元々関心が無かった福祉学部以外の学生からの応募がたくさんあったそうだ。

+ 若手介護スタッフや介護を学ぶ学生の自己肯定感を高める

(背景)

介護に志を持っている若者が、親御さんや周囲の人の意見から漠然とした不安感を抱いている。



専門学校にてWel-beeを配布して講演をする

「自分の選んだ道は間違っていなかったんだ。」 (アンケートより)

+ さいごに：活動を通して見えたこと

- 量の確保の視点のアプローチの限界。
- 質の確保の視点の重要性

→若者の福祉の入り口をつくっても、本当に若者が心から仕事を
楽しめる現場はまだ少ないのではないか。(大学院での議論か
ら)

株式会社ケアワーク弥生にて

面白い仕事をする



若者が働きたい
現場となるよう
マネジメントする



発信